

校長会報

令和元年度 第2号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町55
県教育会館内
TEL (0852) 27-8530
FAX (0852) 67-3360

県立高校魅力化コンソーシアムが 目指すもの



島根県教育庁 教育監

佐藤 睦也

七月三十日から三日間、本年度第一回のミドルリーダー育成研修を国立三瓶青少年交流の家で開催し、県内の小・中・高等学校及び特別支援学校から三十五名の先生方に参加をいただきました。各学校を中心となって実質動かし、大変頼もしく感じました。

始めに、この研修で「ミドルリーダーに期待するもの」というテーマで私が話した期待する三つのものについて述べさせていただきます。

一つ目は「時代を読む力」です。変化がめまぐるしく先が読めない時代にあつて、これからの時代を読み、児童生徒にどのような力をつけるべきか、

しっかりと考えることは教員としてまた学校経営の中核を担うミドルリーダーの先生方にとって大変重要なことであると考えています。

二つ目は「当事者意識」です。こうした世の中の変化を、自分事として考えられるかどうかは、教育を大きな視点で捉え学校経営を行う上で、また地域や校種間の連携を行う上でも大切なことだと考えています。

最後は「巻き込む力」です。最近「チーム学校」という言葉をよく耳にします。校内の教職員がそれぞれの役割を担いながらも一致団結し協力して児童生徒を育成していくことは重要なことです。が、今後はこれまでに以上に地域住民、

地域行政、関係機関、企業、大学等とも連携協働して教育をしていくことが大きな流れとなっています。そうした連携協働をしていく上で、校内の教職員を巻き込み、地域の人びとを巻き込んでいく力はミドルリーダーには欠かせないものと感じています。

研修会では、行政サイドから国の地方創生計画である「まち・ひと・しごと創生基本計画」、島根県の行政計画の最高位に位置づけられている「島根県創生計画」、教育サイドから「新学習指導要領」、「県立高校魅力化ビジョン」、そして「大学入試改革」の五つの視点から世の中を見つめ、どのような児童生徒を、どのように育てるのか、そのために大切な事は何かを一緒に考えてみました。ここでは、本年二月に県教委で策定した「県立高校魅力化ビジョン」について少し述べてみたいと思います。ぜひ自分事として考えていただければ幸いです。

県立高校魅力化ビジョンの目指すところは、生徒一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むことを目指した、地域社会との協働による魅力ある高校づくりです。県教委としては高校の魅力化を通して、子供を含む若い世代がこの地域で「学びたい」「生きたい」「子供を育てたい」と思う、魅力ある地域づくりを推進していきたいと考えています。

このビジョンの中で地域と協働した

教育を推進していくためのプラットフォームとして期待しているのが、「高校魅力化コンソーシアム」です。島根県では平成二十三年度から「離島・中山間地域の高校魅力化事業」を行ってきました。ここで得られた成果や知見を島根県全体に広げていこうとする野心的な取り組みです。これは決して高校だけの魅力化を進めようというものではなく、高校が核となり地域の人材育成を進めていこうというものであり、島根県が進めている「教育の魅力化」の象徴的な事業です。ここで最も大切なのは、小中高特といった縦の連携です。学力向上はもちろん、ふるさと教育、地域課題解決型学習など地域で系統立った教育を推進していくことができる可能性を秘めた取り組みです。もう一点大切なのは地域住民、行政機関、企業、大学などとの横の連携です。縦と横を結んでいく場が「高校魅力化コンソーシアム」です。

高校魅力化コンソーシアムは、小学校、中学校、特別支援学校それぞれが目指す魅力的な学校づくりのためにも大変役立つ組織です。是非この組織を自分事として考え、うまく活用していただけると幸いです。県教委では、島根の子供たちが身近な地域に対する愛着と誇りを持ち、確かな学力と豊かな心を育み、夢や希望、目標に向かって挑戦できるよう、学校と地域が協働して子供たちを育てていきたいと考えています。

出雲支部

校長会の組織を生かして進める
ミドルリーダーの育成

校長 西村 孝司
(出雲市立多伎小学校)

出雲市小学校長会では、ミドルリーダーを「学校組織の中で、教員同士、教員と管理職を繋ぎ、校務運営上学校の中核的な役割を果たすキーパーソン」ととらえ、一つのマインド「意欲・行動力」と四つのスキル「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」「関係調整力」「マネジメント力」を身に付けることを主眼に置き、ミドルリーダーの育成に取り組んでいる。

出雲市小学校長会の良いところは、以前からの積み上げがあり、校長会主催の研修会ができることである。

昨年度は、七月に三十六校中二十八校で三十五名のミドルリーダーを指名し、八月にミドルリーダーと校長の合同研修会を行った。合同研修会はミドルリーダーと校長が研修の内容を共有できる良さがある。ミドルリーダーの視野を広げ、意欲や行動力を高める良い機会になると共に、校長のミドルリーダー育成への意識付けにもなった。合同研修会をきっかけに、各校でミドルリーダーの育成に取り組んだ。しかし、研修会に参加できなかった学校もあり、ミドルリーダーを指名しないまま一年を終えた学校もあった。

そこで、今年度は、次の四つのことを大切にして実践した。

- ①組織的な取組をさらに進めるために引継ぎをして取組を共有する
 - ②年度当初に、すべての学校でミドルリーダーを指名してスタートする
 - ③校長がミドルリーダーの目標を把握し、継続して育成に取り組む
 - ④今後の人事異動も視野に入れて広域で人材育成を進める意識を持つ
- 今年度は、四月に、出雲市内すべての小学校で五十四名のミドルリーダーを指名した。研究主任や女性が増え、養護教諭の指名もあり、人材育成の意識の高まりを感じる。
- 私の学校では、ミドルリーダーのマネジメント力や調整力を伸ばしたいと考えて取り組んでいる。今年度大切にしたいのは、「期待していると伝えること」「自分のキャリアアステージを意識させること」である。
- 出雲市小学校長会みんなで取り組んでいるという安心感の中、評価や声かけを大切にしながら現在も取り組んでいるところである。

シリーズ特集

「ミドルリーダーの育成」

江津支部

校長会組織や学校の実情を活かした
ミドルリーダーの育成

校長 木村 孝
(江津市立渡津小学校)

今、学校組織の要となるミドルリーダーの育成は喫緊の課題である。本稿では、江津市校長会組織と市内各校で実践しているミドルリーダー育成の取組を紹介する。

江津市校長会ではミドルリーダーに求められる資質・能力の捉えを「高度な専門知識・技能」「企画力」「連絡・調整力」としている。その校長会の取組の一つが市内全教職員を対象とした資質向上研修である。喫緊の教育課題や最新の教育情報、授業づくりや学級経営、教職員のコミュニケーション力向上等の内容で外部講師を招聘し、講演会やワークショップの形態で行っている。

また、現職研修という名称で学校教育・学校管理への理解を深め、実務力・仕事を高め学校力向上を目的とした中堅教員を対象とする研修も行っている。

各校の実情を活かした取組として、組織を構成しているメンバーへの役割の周知や当面の目標の共有による士気の向上。企画運営会議、分掌部会、学年部会等の場で育成を意図して提案や調整を求めている校長。評価システムでの校内組織支援の場での協

議を活用した職員相互の啓発等があり、各校で様々な実践をしている。

実践から見えてきた校長の役割としては、①学校が目指すべき方向や課題を明示し目標を共有することで、教職員の活動を意味づけ、価値づけること。②教職員個々の特性や意向、将来の育成を考慮して適切な校務の割り当て、場を与え、その意図を本人に伝えること。③教職員評価システムにおける年度当初・中間・年度末面談、人事調査内容確認面談を重視すること等である。また、見えてきた課題については、定例校長会で情報を共有し、「江津の教育」を支えるミドルリーダーの育成について協議を深めている。

校長同士が互いに学び合いながら取組を進めることで、市全体の課題の共有が進み、今後の実践への意欲も高まっている。



学校紹介

みんなで創るすばらしい 高角小学校

校長 石橋 邦彦
(江津市立高角小学校)

高角小学校は、往来が丘という小高い丘の上にあります。二百三十七名の子どもたちは、毎朝元気よく学校へと続く坂道が上がってきます。校舎から見える日本海は、四季折々の美しい姿を見せてくれます。また下校時には、笑顔を夕日に染めながら坂道を下っていきます。かつてNHKの「みんなのうた」で歌われた「学校坂道」は、私たちの学校にぴったりです。子どもたちはこの「学校坂道」が大好きで、学習発表会や一年生を迎える会などで、声をそろえて歌っています。

高角小学校は、昭和四十六年、嘉久志小学校と和木小学校が統合して誕生しました。まもなく五十周年を迎えようとしています。三十周年を記念して寄贈いただいた童画家、故佐々木恵未先生の「みんなの学校」春よこい みんなこい」は、学校の宝物の一つです。そこには、優しく温かい笑顔の子どもたちや地域の人々がたくさん描かれており、見るだけで心がポカポカしてきます。

高角小学校は、地域に愛された学校です。登下校時には、たくさんの地域の方が見守り隊として、子どもたちを導いてくださいます。木曜日と金曜日の放課後は、「角っ子広場」を開催し、

鬼ごっこやけん玉など昔遊びでたつぷり楽しませてくださいます。また、校外学習に出かけるときには、引率などの支援に駆けつけてくださいます。地域のコミュニティ交流センターでは、「サタデースクール」を開いてくださり、勉強も見てください。子どもたちは、「こんな素敵な地域で、すくすくと大きくなり、小学校を卒業すると地域のジュニアリーダーとして、地域づくりに貢献していきます。保護者の皆様も学校応援団として、力を発揮してください。学習発表会では、バザーを開いてくださり、子どもたちは大いに楽しんでいきます。

「みんなの学校」のような笑顔があふれる学校を目指し、「学校坂道」を歌いながら、六年生を中心に子どもたちと地域の皆様と保護者の皆様、そして教職員が一体となつてすばらしい学校づくりを日々汗を流しています。



学校紹介

育てたい力や学びの過程を 中学校区三校で 共有して取り組むふるさと教育

校長 大島 義紹
(津和野町立木部小学校)

毎朝、地域の方と子どもたちの間で交わされるおはようのあいさつ。遙か遠く二百メートルも離れた場所から、お互いの存在を確かめ合う呼び声のよいうないさつは、時折行き交う自動車の音に負けじと静かな山間に今日も響き渡っています。豊かな自然と子どもたちに温かく関わってくださいる地域とに恵まれた木部小学校は、みんなで一緒に活動することが大好きな子どもたち二十一名が通う小さな学校です。

この恵まれた環境を生かし、地域と関わり合いながら行う体験活動とおして、ふるさと教育に取り組んでいます。学校教育目標をもとに、中学校区三校（中学校一校、小学校二校）合同で九年かけて子どもを育てていく「みんなのまちづくりプロジェクト」に沿って取り組んでいることが特徴です。プロジェクトを進めるに当たっては、三校合同で子どもたちに育てたい力（コミュニケーション力・主体的に学ぶ姿勢や力とチャレンジする意欲・ふるさとへのよさや課題を知り、よりよくしようとする力）と学びの過程を明確にし、共有しています。

高学年の総合的な学習の時間の取組では、「ふるさとへのよさや課題を知り、地域のために何ができるか考え、具体的に行動すること」を目的として、学習を進めました。木部地区の荒地や空き家を減らすために何ができるか考え、お年寄りたちになつくと木部に住みたいと思ってもらうために開催した「思い出作ろう総合イベント」は好評で、翌年度には地域興しの取組として公民館とタイアップした活動となりました。地区内四つの集会所を利用して、お菓子作りや折り紙遊びなどの交流活動を行い、感謝の言葉やたくさん笑顔、「また是非やってほしい。」といった感想をいただきました。

この活動をとおして子どもたちが感じた達成感や満足感は、主体的に学ぶとする姿勢やチャレンジする意欲をより一層確かなものに変えていったことは言うまでもありません。

今後も地域のよさや課題などに働きかける活動を、計画的・系統的に行い、ふるさとに思いをもつた子どもを育成し、地域とともに進めていきたいと思えます。



事務局便り

事務局長

中村 次郎
(松江市立母衣小学校)

中国地区小学校長会 第一回理事会並びに連絡協議会等について(報告)

七月二十六日(金)、今年度は鳥取市において開催され、鳥根県からは奥村会長はじめ七名が参加しました。主な点について報告します。

- 一 第六十六回中国地区小学校長会教育研究大会鳥取大会について
令和元年十一月八日開催
 - (一) 流れ等について
 - ・一日開催とし、理事会・理事懇親会は前日に開催する。
 - ・二次案内記載変更事項の確認
 - ・全体会場の最後尾に分科会関係者の席を設定するとしていたのを席は特に設けず、一般会員と一緒に移動する事とした。
 - ・分科会打合せの時刻を変更する。加えて、各会場で昼食をとりながら打ち合わせを行うこととした。
 - (二) 通知事項
 - ・前記の内容が了承されました。
 - ・駐車場内に貸切バスの駐車ス

ペースはなし。

・分科会での小グループ司会は基本的に山口・広島とする。

- 二 第六十七回中国地区小学校長会教育研究大会山口大会について
令和二年十一月十三日開催
 - (一) 提案事項
 - ・次回理事会において各県割当分科会提案者・司会者の報告について知らせる。
 - ・鳥根県へは、分科会提案割当として「⑤豊かな人間性」と「⑨学校安全」が割当済み。

- 三 第六十八回中国地区小学校長会教育研究大会広島大会について
令和三年十一月十二日開催
 - (一) 提案事項
 - ・全体会は呉市文化ホール、分科会は周辺七カ所で行う。
 - ・鳥根県へは、分科会提案割当として「④知性・創造性」と「⑪社会形成能力」をお願いする。

四 情報交換

- (一) 「働き方改革」における各県の取組状況並びに課題について
- (二) 教育研究大会や理事会等への参加並びに出張旅費について
- 五 今後の中国地区小学校長会教育研究大会に関する確認事項
 - (一) 令和四年度鳥根大会は全国大会となる。(中国大会を兼ねる)

※全国大会を開催する際には、開催県へ他の四県より会員一人あたり五千円を協力費として助成してきたことが確認され、令和四年には鳥根県に助成することが申し合わされました。

- (二) 令和六年度は山口大会、七年度は岡山大会とする。(年度の入れ替えをする)

六 その他

広島・岡山市の政令指定都市への権限移譲に伴い、市校長会と県校長会との関係において組織・運営の在り方について検討が進められているとの報告がありました。

県教育委員会との意見交換会 (報告)

八月二十一日～二十二日、第三回理事会を開催しました。一日目の午後は県教委との意見交換会を行い、(一)教職員を取り巻く現状について(児童の実態・家庭環境、長時間勤務、メンタルヘルス、働き方改革)、(二)「学校図書館活用教育について」の二つの話題で県教委の皆さんと意見交換をしました。

(一)については、山根毅常任理事(松江・恵曇小)から、家庭環境や支援

を要する児童の増加といった児童の実態にも触れながら教職員の長時間勤務・メンタルヘルス・働き方改革

について、恵曇小の課題解決に向けての取組を紹介していただきました。各理事からも、各校の現状や取組について情報提供がありました。

(二)については、鳥居正嗣常任理事(浜田・原井小)から、学校図書館活用教育研究指定校としての取組とその成果について具体的な事例を交えながら情報提供していただきました。各理事からも、学校図書館への司書配置事業の有効性について各校の現状をもとに活発に情報提供がありました。

県教委からも、その都度情報提供や施策についての説明、具体的な取組についての感想等をいただく中で、各理事からの思いのこもった話題も提供されていき、とても有意義な時間となりました。

編集後記

さわやかな秋風を感じる頃となりました。「〇〇の秋」：様々な教育活動を通して、子どもたちが大きく育つ季節でもあります。

さて、2号のシリーズ特集を、今年度より「ミドルリーダーの育成」としました。いかがでしたでしょうか。

ご多用の中、ご寄稿いただきました関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

(松本)